

令和2年産(2020年産)農畜産物に係る 十勝管内農協取扱高について〔概算〕

〔令和2年(2020年)12月25日
十勝地区農業協同組合長会
十勝農業協同組合連合会
北海道十勝総合振興局〕

1 考え方

本集計は、令和2年産農畜産物に係る十勝管内24農業協同組合の取扱見込額について、農協ごと試算した概算値の集計であり、商系取扱高(農協以外の一般商社等取扱分)は含んでいないことから、十勝管内農業産出額とは異なる。

取扱高には、直接支払交付金、生乳生産者補給金を含むが、産地交付金、農業共済金支払額は含まない。

2 令和2年の概要

**農協取扱高は、耕種部門は減収、
畜産部門は前年並に推移したことにより、
3,456億円(前年比97%)**

◇耕種部門取扱高◇1,308億円(対前年比93% [構成比37.8%])

本年は、4月～6月にかけて干ばつ傾向ではあったが、気温・日照時間は確保され、生育は概ね順調に進んだ。その後、降雨と日照が極端な周期で経過したことから、農作物全般で収量及び品質に影響するとともにコロナ禍により価格に影響。

- 小麦は、入札価格が上昇したものの、6月下旬～7月の日照不足の影響により、収量が前年に比べ下回ることから、前年比12%減
- 豆類は、大豆で前年を上回る作付面積、収量を確保した一方、小豆、いんげんで8月の高温、収穫時の降雨等による品質の低下や価格下落となったことから、前年比17%減。
- ばれいしょは、でんぷん価が前年より高い傾向であったものの、作付面積の減少に加え、干ばつ傾向の影響により単収減となったことから、前年比1%減。
- てんさいは、適度な降雨と日照により根部肥大が進み、前年並みの収量は確保したものの、糖度は前年を下回ることから、前年比4%減。
- 野菜は、主要品目で概ね前年を上回る作柄となったことや、市況価格が堅調に推移したことから、前年比4%増。

◇畜産部門取扱高◇2,148億円(対前年比100% [構成比62.2%])

- 酪農は、1年を通して前年を上回る生乳生産を維持するとともに、乳価が上昇する一方、個体販売額がやや下回ったことから前年比6%増。
- 肉用牛は、枝肉価格や素牛取引価格が下落したことから、前年比10%減。

3 取扱高集計結果

(単位：億円、%)

区分		令和2年(概算値)		令和元年(概算値)		対前年比	
		取扱高	構成比	取扱高	構成比	増減額	前年比
耕種	麦類	328	9.5	372	10.5	△44	88
	雑穀・豆類	195	5.6	236	6.6	△41	83
	ばれいしょ	269	7.8	272	7.7	△3	99
	てんさい	276	8.0	288	8.1	△12	96
	野菜	235	6.8	227	6.4	8	104
	その他	5	0.1	6	0.2	△1	83
	小計	1,308	37.8	1,401	39.5	△93	93
畜産	酪農	1,403	40.6	1,327	37.4	76	106
	生乳	1,221	35.3	1,143	32.2	78	107
	肉用牛	713	20.6	790	22.3	△77	90
	豚・鶏	16	0.5	15	0.4	1	107
	その他	16	0.5	16	0.4	0	100
小計	2,148	62.2	2,148	60.5	0	100	
総合計		3,456	100.0	3,549	100.0	△93	97

※ 取扱高は税抜き。